

## 就労状況と魅力が男女関係に及ぼす影響<sup>1)</sup>

川 名 好 裕 (元立正大学心理学部教授)

伊 藤 友美子 (立正大学大学院心理学研究科対人社会心理学専攻修士課程 令和3年度修了生)

### Effects of employment status and attractiveness on male-female relations

Yoshihiro KAWANA (*Retired Professor of Psychology, Rissho University*)

Yumiko ITO (*Ex-graduate student, Rissho University*)

#### Abstract

An internet survey was conducted to investigate the impact of male and female employment status on male and female relationships. Data on 563 men and 652 women in their 20s to 40s were obtained from the Tokyo metropolitan area. Data are collected by employment status (regular employees, non-regular employees, self-employed, unemployed : full-time housewives) and gender relationships (acquaintances/friends, unrequited love, lovers, fiancés, spouses, affairs). As a result of the analysis, the following findings were obtained. An analysis of the combination of male and female employment patterns shows that there are many combinations where work hours and spaces match, such as between regular employees and between non-regular employees. This is the condition for the progress of the relationship between men and women. Outside of work-related activities, the internet was the second most popular for men, and the introduction of friends was the second most common for women. As for the effect of work style on gender relations, men tend to combine the same work style, but they are not very particular about the work style of their female partner. Instead, women prefer men who are regular employees. Regarding the status and economic power of the person, it is recognized that men are generally higher than women. Among women, even regular employees do not perceive themselves as having higher status and higher economic power compared to self-employed and non-regular employees. Women prefer male partners with high status and economic power for engagement, marriage, and adultery relations. In particular, female non-regular employees choose men with high status and economic power as partners. As a result of analyzing the content of interactions between men and women, men were generally more positive about face-to-face communication than women. Regarding co-behavior and social exchange, male self-employed workers and regular employees were more active than females, but male non-regular employees were less active than females. From the above, it was found that male non-regular employees are extremely disadvantageous for the development of gender relations. However, with the exception of unrequited love and extramarital affairs, there was no effect of employment status on love, relationship satisfaction, and relationship happiness in other male-female relationships.

**Key words :** Employment status, male-female relations, gender comparison, socioeconomic status, love, relationship satisfaction

#### 問 題

近年、独身既婚問わず女性が働くことが主流になりつつあり、非正規社員の割合が増加する中、異性関係における男性と女性はどのような相手を求めて実際に選んでいるのだろうか。そして、労働市場環境の悪化

に伴う「派遣切り」に象徴される派遣労働者の大量解雇など、非正規就業者の生活基盤の脆弱性や不安定性が異性との交際意欲の低下や独身継続という社会問題としてクローズアップされている(佐々木, 2012)。また、1990年以降、男性の非正規社員は増加していて、35歳以下の若年男性における非正規雇用では正規雇用

に比べ有配偶率が低く（総務省, 2007）、晩婚化の原因や少子化につながるものが懸念されている。日本社会における結婚の出会い方は、戦後まで見合いが中心だった。これが1960年代に恋愛結婚に逆転され、2015年に恋愛結婚が87.3%に対し見合い結婚が5.5%であり、現代では9割近くの結婚が恋愛結婚となっている。このように、日本社会では結婚相手との出会い方が変貌し、恋愛結婚化してきた（小林, 2012）。恋愛結婚が主流になっていることについて、柏木（2003）は夫婦関係における“愛情”を重視する傾向の端的な現れであると指摘している。すなわち異性関係を考える際に、恋愛を外すことなく考える必要性があり、相手との関係性についても幅広く捉えることが望ましくなっている。また、経済的自立が可能になった女性にとって結婚生活のもつ価値・意味は従来の社会経済的なものとは異なるものになってきている（柏木, 2003）。現代社会において、女性観点からの異性関係の在り方が変化をあたえていて、結婚生活に関しては、柏木（1998）は、少子・高齢化に伴う母親役割期間の縮小、家事の省力化などは、女性が家庭内役割だけに生きがいを感じることを難しくしていると指摘している。しかし、その一方で結婚をめぐる意識変化として、柏木（2003）は、女性の間で夫婦が性別分業によらず対等な立場に立って相手の生き方を尊重・支持し合う関係を志向する意識が高まってきていると考えられると述べている。

正規社員と非正規社員の割合について、2020年の総務省の労働力調査によると、正規社員比率は62.0%、正規社員以外の比率は38.0%であることが示されている。また、2019年の国民生活基礎調査の結果による就業者の非正規社員率の年代別を見ると、男性は10代で56%（高校生や大学生のアルバイト含む）、20代で26%、30代で11%、40代で8%、50代で10%、60代前半で49%であった。一方で女性は、10代で77%、20代で35%、30代で45%、40代で56%、50代で61%、60代前半で76%であった。雇用形態別で見ると、近年、パートとアルバイトが増加していること、非正規社員は正規社員に比べ、平均賃金が低いことが示されている。しかし、非正規労働者の増大・多様化、就業分野の拡大は、かつての家計補助的・職務補助的という補助的労働者から、職務内容の高度化、能力水準の向上、そして勤務時間・勤続年数の増大、さらに職場での役割の高度化が進み、量・質ともに「欠かせない労働力」として、非正規の基礎化が進んだと言ってよい（柴田, 2017）。

晩婚化、非婚化、少子化が起きて大きな社会問題となっているが、その一つとして、まずは経済的な背景が存在していて、相手と交際していても婚約や結婚に至らないことがある。府中（2016）は、主に社会経済的要因によって人びとが結婚にアクセスしにくくなっ

ているということを指摘しているが、一方で落合（2004）は人びとが結婚を望む理由は他にもあり、愛情や子どもを求めて、家族を作ることを目的とすることは、近代以降一貫した結婚観であり、家族観であると述べている。

また、ジェンダー的な視点から経済的に自立もしているため、結婚という形式に捉われたくないという場合もある。結婚しても子どもを持つことを望まない場合もある。つまり、ここ数十年で恋愛結婚化、未婚化、少子化が同時に進行した（小林, 2012）。

## 研究目的

今日では、働き方も多様化しているため、以前とは様子が違ってきていることより、これらの問題を心理学的な視点から検討したい。交際意欲の低下や独身継続という社会問題を心理学的にアプローチするにあたり、非正規雇用が多くなっているため、晩婚化非婚化の原因の一要因になっている。そのなかでも、労働と魅力と異性関係を重ねたテーマに関しては、研究は多くみられない。そのため、本研究では、先行研究である川名（2019）では、男女関係を知合友人、片思い、恋愛関係、婚約、結婚、不倫などのデータを別に収集し、男女比較や年齢世代の比較研究をしているので、その枠組みを基にしながら、新たに雇用形態や職場環境などの就労状況を加えてインターネット調査で収集することにした。

## 方法

### 調査方法

目的に沿って、正規社員、非正規社員、自営業、無職（専業主婦）の男女を対象に異性関係についてのインターネット質問紙調査を行った。以下、調査対象者、調査の実施方法、質問紙の構成について説明する。

### 被調査者および調査時期

研究は質問紙調査法（オンライン・アンケート調査）を用いて、調査対象者はインターネット調査会社の登録者サンプルからの東京および近県の首都圏の20代から40代の男女とした。質問紙調査票はインターネット調査会社に配布を依頼し、データを収集した。調査実施期間は、2021年8月であった。有効データ数は、合計1216人（男性564人、女性652人）で、本研究では、職業を、正規社員、非正規社員、自営業、無職（専業主婦）に分類した上で、同数程度の被調査者が集まるように調査会社に依頼をした。また本研究では、被調査者にアルバイトなどの学生は除外した。一般的な実際の雇用関係の分布と異なるのは、雇用関係における男女の比較をするために、データ数がある程度、そろ

える必要性があったためである。

異性との関係も同様に、知合友人、片思い、恋人、婚約者、配偶者、不倫関係も同数程度の被調査者が集まるように調査会社に依頼をした。ただし、婚約者については、恋人と込みでデータ数を依頼したため、他の関係性よりも取得データ数が少なくなっている。

### 調査データ数

調査データ数（n）内訳は、Table 1、2のとおりである。

### 質問紙の構成

質問項目はQ 1.～Q96.から構成されていた。質問紙の冒頭部に、「現在のあなたにとって最も好きな異性または親しくしている異性（配偶者を含む。家族は除く。）を一人だけ思い浮かべて下さい。」ということを示明した。

次に、以下のような本人と相手についてのカテゴリー質問をおこなった。雇用形態（正規社員、自営業、非正規社員、無職＝専業主婦）、職業、職種、勤務状況、職場環境、経済状況などの就労状況に関する質問、本人の性別、本人と相手の年齢、婚姻状況（未婚、既婚、離婚単身、死別単身）、相手との関係（知合友人、片思い、恋人、婚約者、配偶者、不倫相手）などの本人と相手の情報、「明るい性格である」「心配性である」「真面目である」等の性格が28項目、「かわいい」「スタイルが良い」「背が高い」「性的魅力がある」「よく仕事ができる」等の本人の魅力および相手の魅力が24項目であった。また、「電話でよく相手と話をする」「機会があれば、一緒に行動することが多い。（食事、買い物、行楽、旅行など）」等の交流内容が26項目、「あなたは相手のことをどの程度愛していますか？」等の相手への愛と相手からの愛、関係満足度および関係幸福度が4項目である。全96項目を「全くあてはまらない」から「非常に当てはまる」の7段階評定で回答を求めた。

しかし、本研究では、主に、本人の性別、雇用形態（正規社員、非正規社員、自営業）、相手との関係（知合友人、片思い、恋人、婚約者、配偶者、不倫相手）を使用して比較分析をした。

## 結果

### 本人と相手の勤務形態

Table 3より、本人男性の場合、非正規社員同士の組み合わせが67.4%と他の組み合わせよりも多い。その次に多いのが正規社員同士の組合せで48.8%である。男性では相手の女性の雇用形態の好みにはあまり差がないが、同じ雇用形態の組み合わせた多いようだ。

Table 4より、本人女性による正規社員同士の組み合わせは83.1%であり、他の組み合わせよりも正規社員同士の組み合わせが最も多い。また、女性は自分の雇用形態に関わらず、正規社員の男性を異性関係の相手として選んでいる割合が多い。

Table 1 調査数（男性）

男性		相手との関係						合計
		1. 知合友人	2. 片思い	3. 恋人	4. 婚約者	5. 配偶者	6. 不倫相手	
本人雇用形態	1. 自営業	43	40	31	7	49	17	187
	2. 正規社員	41	39	43	3	46	29	201
	3. 非正規社員	47	39	37	5	40	7	175
	4. 無職	0	0	0	0	0	0	0
	合計	131	118	111	15	135	53	563

Table 2 調査数（女性）

女性		相手との関係						合計
		1. 知合友人	2. 片思い	3. 恋人	4. 婚約者	5. 配偶者	6. 不倫相手	
本人雇用形態	1. 自営業	40	37	30	9	42	21	179
	2. 正規社員	46	41	40	6	46	27	206
	3. 非正規社員	43	39	36	4	48	30	200
	4. 無職(専業主婦)	0	0	0	0	45	19	64
	合計	129	117	106	19	181	97	649

Table 3 本人と相手の雇用形態 (男性)

		相手雇用形態				
		自営業	正規社員	非正規社員	専業主婦	
男性	本人雇用形態	自営業	21.2%	24.2%	24.2%	30.3%
		正規社員	1.2%	48.8%	30.5%	19.5%
		非正規社員	2.2%	26.1%	67.4%	4.3%
		合計	8.2%	35.1%	37.1%	19.6%

Table 4 本人と相手の雇用形態 (女性)

		相手雇用形態			
		自営業	正規社員	非正規社員	
女性	本人雇用形態	自営業	27.6%	70.7%	0.0%
		正規社員	10.8%	83.1%	1.5%
		非正規社員	7.7%	80.8%	9.0%
		専業主婦	19.4%	74.2%	3.2%
		合計	15.6%	77.6%	3.8%

## 本人と相手の勤務時間帯

Table 5 および Table 6 より、本人男性82.0%、本人女性89.4%より男女共に日勤同士の関係が多い。また、本人男性が夜勤の場合、相手女性が日勤の組み合わせはみられない。本人男性が夜勤の場合、相手女性はシフト勤務か夜勤である傾向がある。同様の勤務体系の方が出会いやすく、デートや生活がしやすく、安

定した関係性になりやすいことが影響していると推察できる。同じ時空で共同に働いている場の方が、異性が自然に出会いやすい環境と考えられる。すなわち、お互いの自由な時間帯が合うことや会う頻度が繰り返されること、異性関係に発展する男女が知り合えるきっかけになっていると考えられる。

Table 5 本人と相手の勤務時間帯 (男性)

		相手勤務時間帯				
		シフト勤務	日勤(17時までの仕事)	夜勤(17時以降の仕事)	合計	
男性	本人勤務時間帯	シフト勤務	47.4%	52.6%	0.0%	100.0%
		日勤(17時までの仕事)	16.9%	82.0%	1.1%	100.0%
		夜勤(17時以降の仕事)	66.7%	0.0%	33.3%	100.0%
		合計	23.4%	74.8%	1.8%	100.0%

Table 6 本人と相手の勤務時間帯 (女性)

		相手勤務時間帯				
		シフト勤務	日勤(17時までの仕事)	夜勤(17時以降の仕事)	合計	
女性	本人勤務時間帯	シフト勤務	61.8%	35.3%	2.9%	100.0%
		日勤(17時までの仕事)	9.6%	89.4%	1.0%	100.0%
		夜勤(17時以降の仕事)	33.3%	50.0%	16.7%	100.0%
		合計	22.9%	75.0%	2.1%	100.0%

### 知り合ったきっかけ

Table 7 が男性の関係別の知り合ったきっかけ、Table 8 が女性の関係別の知り合ったきっかけの割合である。

男女共に、男性の婚約者以外のすべての関係性において職場や仕事上での出会いが圧倒的に多く、恋人では男性が41%で女性が37%となっている。次いで多いのが男性はSNSであり、女性は友人の紹介である。

Table 7 より、男性の2番目に多いのがSNSの理由として、男性の方が冒険的であることが過去の研究で明らかになっていて、例としてナンパが挙げられる。

Table 8 より、女性の2番目に多いのが友人の紹介である理由として、女性の方が家族や友人など対人的なコミュニケーションが多いことが影響していると考えられる。

恋人の友人の紹介を男女それぞれに注目すると、男性は7%に対して女性は20%であり、この差は男性の複数の女性を確保しておきたいので男性自身の身近にいる、気に入っている女性を友人に紹介することはしない傾向にあるが、女性の場合は1番好きな人を確保できればあとは友人に紹介してもいいという男女の欲求の違いが影響していると推察される。

また、不倫相手は男女共に職場が男性57%で女性が55%、SNSが男性24%で女性が12%と他の関係性とは

異なる結果となっている。

男女は同じ空間を共有することで知り合うため、同じ空間で、より長く過ごす職場や仕事上での出会いが男女の結びつきの重要な要素となっていると考えられる。

### 男性の年代別の雇用形態の組み合わせ

正規社員同士の組み合わせは、20代で26.7%、30代で32.8%、40代で20%と最も多く、次いで非正規社員同士の組み合わせは、20代で20%、30代で14.9%、40代で18.6%であり、男性の場合は、年代別に比較してみても同じ雇用形態の相手を選んでいる傾向にあることがわかる (Table 9-Table 11)。異性関係になる男女は、同じ空間や時間を過ごしている方が出会いやすいことが推察される。

### 女性の年代別の雇用形態の組み合わせ

正規社員同士の組み合わせは、20代で38.8%、30代で28.1%と最も多いが、40代は本人が非正規社員で相手が正規社員の組み合わせの23.6%が最も多くなっている (Table 12-Table 14)。相手が正規社員の合計に注目すると、20代で69%、30代で73.5%、40代で68.2%となり、7割近くの女性が自分自身の雇用形態に関わらず相手の男性に正規社員を選んでいるのがわかる。

Table 7 男性の知り合ったきっかけ

分類	SNS	キャバクラ	ナンパ	学校	偶然	結婚相談所	合コン	趣味など	職場仕事	相席屋	友人の紹介	合計
1. 知人友人	9%	1%	0%	13%	8%	0%	0%	14%	47%	1%	6%	100%
2. 片思い	12%	3%	2%	10%	7%	1%	1%	9%	53%	0%	4%	100%
3. 恋人	24%	3%	2%	3%	6%	2%	2%	9%	41%	0%	7%	100%
4. 婚約者	14%	0%	0%	7%	7%	14%	0%	14%	7%	7%	29%	100%
5. 配偶者	11%	1%	1%	12%	3%	4%	6%	9%	37%	0%	17%	100%
6. 不倫相手	24%	0%	2%	2%	7%	0%	5%	2%	57%	0%	0%	100%
合計	14%	2%	1%	9%	6%	2%	2%	10%	44%	0%	8%	100%

Table 8 女性の知り合ったきっかけ

分類	SNS	キャバクラ	ナンパ	学校	偶然	結婚相談所	合コン	趣味など	職場仕事	相席屋	友人の紹介	合計
1. 知人友人	4%	0%	0%	16%	1%	1%	1%	16%	50%	0%	10%	100%
2. 片思い	12%	2%	1%	11%	9%	2%	0%	14%	37%	2%	9%	100%
3. 恋人	16%	0%	3%	9%	1%	4%	3%	6%	37%	1%	20%	100%
4. 婚約者	6%	6%	0%	12%	0%	18%	0%	24%	24%	0%	12%	100%
5. 配偶者	7%	0%	1%	11%	2%	5%	4%	7%	40%	0%	24%	100%
6. 不倫相手	12%	4%	5%	4%	5%	0%	2%	5%	55%	0%	9%	100%
合計	9%	1%	2%	11%	3%	3%	2%	10%	43%	1%	15%	100%

Table 9 男性年代別双方雇用形態

		相手雇用形態				
		自営業	正規社員	非正規社員	無職(専業主婦)	合計
本人雇用形態	自営業	3.3%	3.3%	3.3%	0.0%	10.0%
	正規社員	3.3%	26.7%	13.3%	3.3%	46.7%
	非正規社員	3.3%	13.3%	20.0%	6.7%	43.3%
	合計	10.0%	43.3%	36.7%	10.0%	100.0%

Table 10 男性年代別双方雇用形態

		相手雇用形態				
		自営業	正規社員	非正規社員	無職(専業主婦)	合計
本人雇用形態	自営業	3.7%	11.9%	6.7%	0.0%	22.4%
	正規社員	1.5%	32.8%	9.0%	4.5%	47.8%
	非正規社員	0.0%	11.9%	14.9%	3.0%	29.9%
	合計	5.2%	56.7%	30.6%	7.5%	100.0%

Table 11 男性年代別双方雇用形態

		相手雇用形態				
		自営業	正規社員	非正規社員	無職(専業主婦)	合計
本人雇用形態	自営業	9.0%	13.0%	8.4%	7.2%	37.7%
	正規社員	0.6%	20.0%	8.4%	4.3%	33.3%
	非正規社員	1.7%	7.8%	18.6%	0.9%	29.0%
	合計	11.3%	40.9%	35.4%	12.5%	100.0%

### 地位経済力

自分と相手の魅力の因子分析の結果、抽出された魅力のうちで、雇用形態に関連した「地位経済力」の結果だけについて報告する。

### 本人の地位経済力の関係別男女比較 Fig. 1 参照

多重比較検定の結果、知合友人、片思い、配偶者、不倫相手において男女で有意差があり、知合友人以外は、男性の方が女性よりも高い。

特に、男性は片思いと不倫相手が高く、これは地位経済力があると自覚している男性は不安定な関係性においても自信がある表れであると思われる。また、片思い以上の関係性においては男性が女性に比べて一貫して高い傾向にあるのは、地位経済力があることを強みにしていると考えられる。

次に本人の雇用形態別に地位経済力を男女比較してみよう。

Fig. 2 本人雇用形態×本人性別（本人の地位経済力）で、本人の性別で主効果があったのと、性別と本

人雇用形態で交互作用が有意であった。雇用形態の多重比較検定の結果、男性の雇用形態の間には有意差はみられなかった。また、女性の正規社員と非正規社員の間には有意差はなかったが、自営業と正規社員の間には有意差があった。

性別の多重比較検定の結果、正規社員の男女で有意差があった。全体的に男性の方が女性より高い傾向にある。

性別と雇用関係の交互作用は、正規社員の男性は地位経済力の自覚が高く、逆に正規社員の女性は地位経済力の自覚が低いことを示す。同じ正規社員でも男女の間で賃金の格差があるからであろうと思われる。

次に「つきあい相手の地位経済力」の男女比較を試みよう。男女関係別、性別で比較してみた。

Fig. 3 相手との関係×本人性別（相手の地位経済力）の図から分かるように、知合友人、片思い、恋人関係までは男女で差は見られないが、婚約者、配偶者、不倫相手において、男性より女性の方が地位経済力の

Table 12 女性年代別双方雇用形態

		相手雇用形態					
20代女性		その他	自営業	正規社員	非正規社員	無職(専業主婦)	合計
本人雇用形態	自営業	0.0%	11.2%	10.3%	0.9%	0.0%	22.4%
	正規社員	0.9%	2.6%	38.8%	0.9%	0.9%	44.0%
	非正規社員	0.9%	4.3%	16.4%	6.0%	0.0%	27.6%
	無職(専業主婦)	0.0%	2.6%	3.4%	0.0%	0.0%	6.0%
	合計	1.7%	20.7%	69.0%	7.8%	0.9%	100.0%

Table 13 女性年代別双方雇用形態

		相手雇用形態					
30代女性		その他	自営業	正規社員	非正規社員	無職(専業主婦)	合計
本人雇用形態	自営業	1.2%	9.5%	17.4%	0.4%	0.4%	28.9%
	正規社員	0.0%	1.6%	28.1%	1.2%	0.0%	30.8%
	非正規社員	1.2%	4.7%	20.2%	3.6%	0.8%	30.4%
	無職(専業主婦)	0.0%	1.6%	7.9%	0.4%	0.0%	9.9%
	合計	2.4%	17.4%	73.5%	5.5%	1.2%	100.0%

Table 14 女性年代別双方雇用形態

		相手雇用形態					
40代女性		その他	自営業	正規社員	非正規社員	無職(専業主婦)	合計
本人雇用形態	自営業	1.8%	9.6%	15.0%	1.1%	1.1%	28.6%
	正規社員	0.7%	3.6%	21.4%	0.7%	1.1%	27.5%
	非正規社員	1.4%	2.5%	23.6%	3.9%	1.1%	32.5%
	無職(専業主婦)	0.4%	1.8%	8.2%	0.4%	0.7%	11.4%
	合計	4.3%	17.5%	68.2%	6.1%	3.9%	100.0%

高い相手を選んでいる。

女性は恋人から先、婚約者や結婚相手には地位経済力が高くないと関係を進めないのではないかと考えられる。特に女性は婚約者以降の関係において地位経済力の高い相手を選んでいることから、恋愛と結婚は別物と捉えている点で男女の違いが理解できる。他方、男性では、婚約者、配偶者、不倫相手において相手の女性に地位経済力を期待していないのが分かる。

次に相手の地位経済力を本人の雇用形態別に比較してみよう。

Fig. 4 本人雇用形態×本人性別（相手の地位経済力）において、本人性別と本人雇用形態で交互作用が有意であった。

多重比較の結果、男女間で自営業、非正規社員で有意差があり、男性より女性の方が地位経済力の高い相

手を選んでいる。特に非正規社員の男女間の差が大きく、正規社員の男女では差がないのに対して、非正規社員の女性は相手に地位経済力のある相手を実際選んでいる。経済力のない女性は経済力のある男性を好んでいるという構図である。正規社員の女性は相手の男性にそれほど高い地位経済力のある相手を選んでいる。

それに対して、男性は相手の女性に地位経済力を期待してないように見える。特に非正規社員男性の相手の女性の地位経済力は低い。

#### 交流内容の雇用形態による違い

男女の交流内容の因子分析の結果、抽出された因子の中で、対面コミュニケーションと、共行動・社会的交換の因子の結果について雇用形態と性別での比較を報告する。

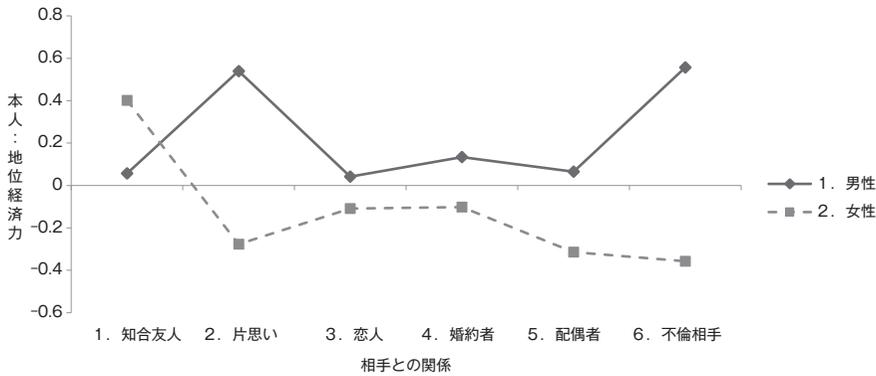


Fig. 1 地位経済力（本人）【相手との関係 × 本人性別】

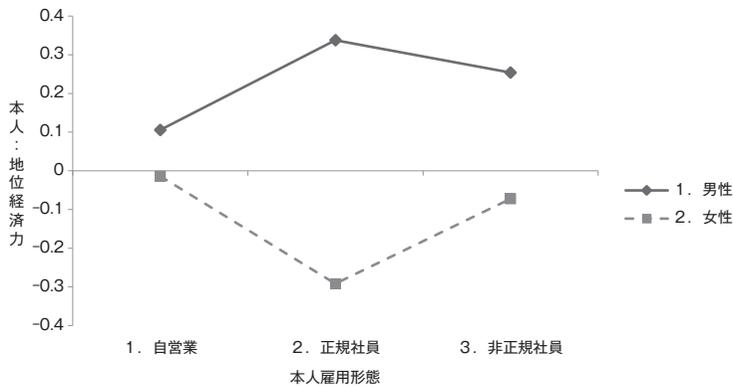


Fig. 2 地位経済力（本人）【本人雇用形態 × 本人性別】

### 対面コミュニケーション

Fig. 5 本人雇用形態×本人性別（対面コミュニケーション）において、本人性別の主効果が有意であった。つまり、全般的に女性よりも男性の方が対面コミュニケーションにおいて積極的であることを示している。

また、多重比較の結果、男性の正規社員と非正規社員の間で有意傾向の差があった（ $P=0.0631$ ）。男性の非正規社員は正規社員に比べて、対面コミュニケーションが消極的で異性関係に自信のなさが反映されている。

### 共行動と社会的交換

共行動とはデートや一緒にの食事、一緒にの行楽や旅行などを指す言葉であり、社会的交換とは、相手へのプレゼントなどの物の交換や相手が困っているときの助言や慰めなどの心理的な交換などである。心理的交換以外では、共行動や社会的交換には経済力が必要とな

るので、本人の雇用形態が関連するのである。

相手と一緒にする共行動と、物や行動や心理的な社会的交換について本人の雇用形態と性別の平均を図に示す。

Fig. 6 本人雇用形態×本人性別（共行動と社会的交換）において、本人性別と本人雇用形態の関係で、交互作用が有意であった。

多重比較の結果、男女間で正規社員における有意差があり、男性の方が女性よりも共行動と社会的交換に積極的である。

多重比較の結果、男性の自営業と非正規社員、正規社員と非正規社員で有意差があった。経済的に恵まれない男性の非正規社員は、自営業や正規社員に比べて極めて共行動と社会的交換が少ないという結果である。

女性の場合は、本人の雇用形態は共行動と社会的交換にあまり影響を及ぼしていない。

川名・伊藤：就労状況と魅力が男女関係に及ぼす影響

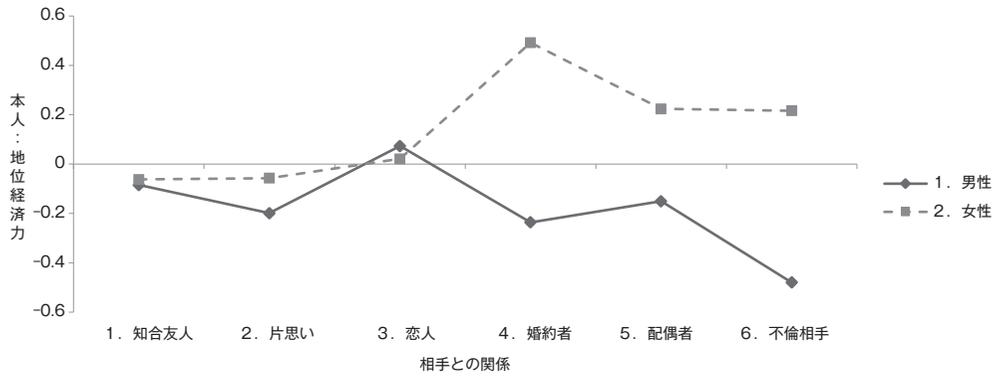


Fig. 3 地位経済力(相手)【相手との関係 × 本人性別】

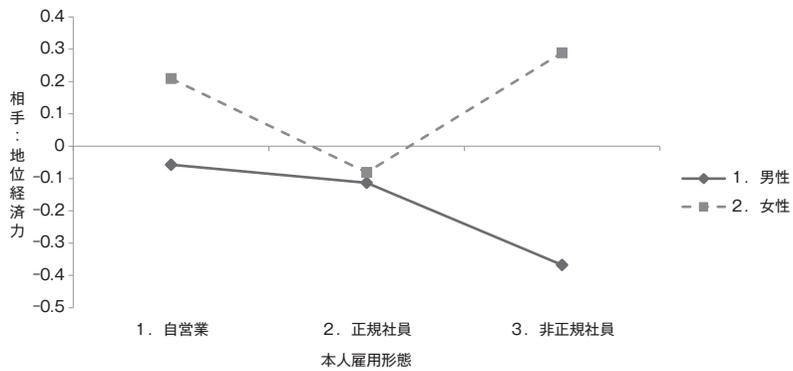


Fig. 4 地位経済力(相手)【本人雇用形態 × 本人性別】

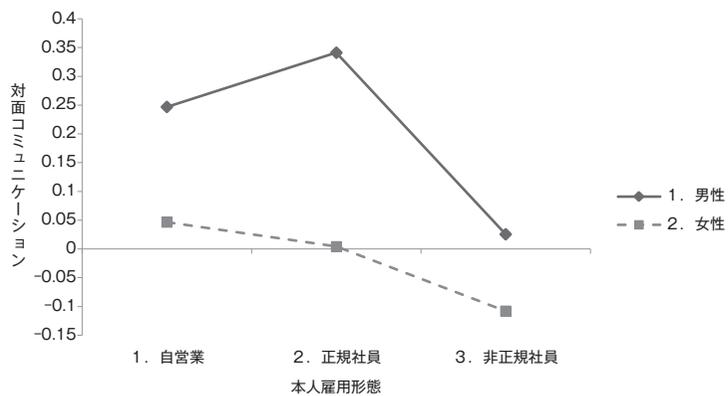


Fig. 5 対面コミュニケーション【本人雇用形態 × 本人性別】

対面コミュニケーションや共行動、社会的交換は、男女の関係を進展させるのに重要な付き合い内容であるが、非正規社員の男性にとってはこれらの側面で消極的にならざるを得ないことが結果分析から分かる。

最後に、男性の雇用形態や経済力のような要因が男女関係の「相手への愛」、「関係満足度」や「関係幸福度」に影響するのかどうかを検討してみたい。

### 相手への愛（雇用形態の影響）

Fig. 7 相手との関係×本人雇用形態（相手への愛）は、付き合い相手への愛の平均を関係別、雇用形態別にプロットしたものである。

多重比較の結果、片思いの自営業と非正規社員に有意差があり、不倫相手の正規社員と非正規社員で有意差があった。片思いや不倫関係などの不安定な男女関係においては、非正規社員の相手への愛は低い

の関係においては、雇用形態の違いによる相手への愛の違いは認められなかった。双方が愛し合う確立した男女関係では、雇用形態の影響はないということである。

### 関係満足度（雇用形態の影響）

次に男女関係の満足度への雇用形態の影響を分析してみた。

図は関係満足度の平均を相手との関係と本人雇用形態別にプロットしたものである。

Fig. 8 相手との関係×本人雇用形態（関係満足度）において、全ての関係性において雇用形態間の有意差はみられなかった。雇用形態は男女の関係満足度に影響を及ぼしてはいないという結果である。

### 関係幸福度（雇用形態の影響）

同じく、関係幸福度についても雇用形態の影響を調

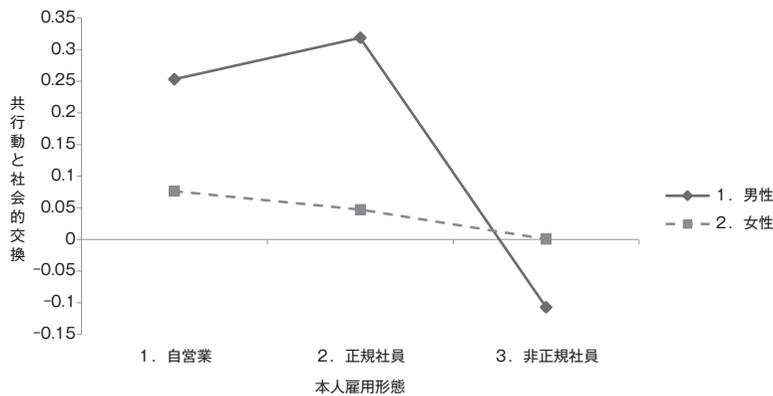


Fig. 6 共行動と社会的交換【本人雇用形態 × 本人性別】

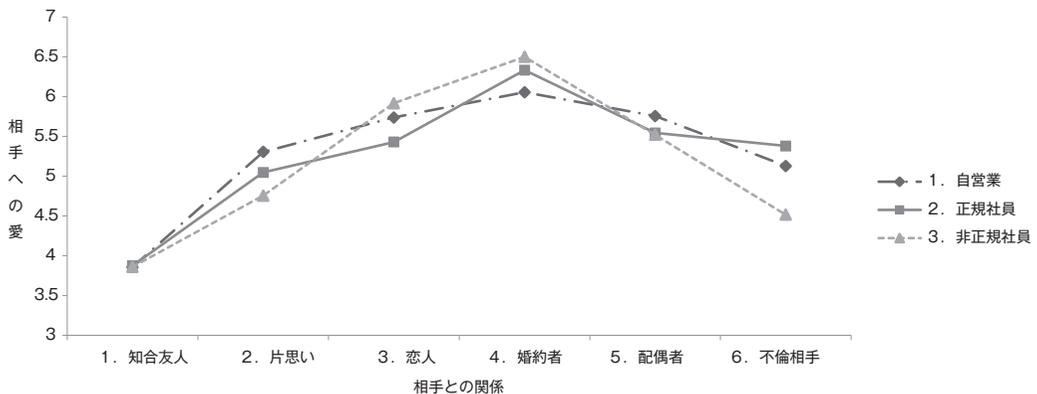


Fig. 7 相手への愛【相手との関係×本人雇用形態】

べてみた。

Fig. 9 相手との関係×本人雇用形態（関係幸福度）において、多重比較の結果、不倫相手の自営業と非正規社員間で有意差がみられたが、他の関係では本人雇用形態と関係幸福度に影響を及ぼしていないという結果である。

### 総括

男性の非正規雇用者は、相手から受け入れられるまでのコミュニケーションや共行動、社会的交換に不利に働くが、いったん関係が確立した後では、相手への愛や関係満足度、関係幸福度に影響を及ぼすものではないという結論である。

社会が生み出した「非正規社員」、本人が望み雇用される場合もあれば望んでいない場合もある。また、非正規社員のほうが正規社員よりも収入が多い場合もある。

る。しかし、安定性や保証などが正規社員と比較して不足することがある。

今回の調査データとしては、女性が男性を結婚相手にならざるを得ないという傾向にあることが明らかになったが、社会が生み出した非正規社員に対して、社会が植え付けた先入観すなわち正規社員の方が安定していて良いといった価値観を刷り込まれてしまっている点も懸念される。実際には、収入が高く安定している非正規社員もいる一方で、収入が低く表面的な安定性などでブラック企業に勤める正規社員も中には存在していることもある。

本論文がそのような社会が作り出した制度と価値観に、今一度疑問を投げかけるきっかけの一助になれば幸いである。

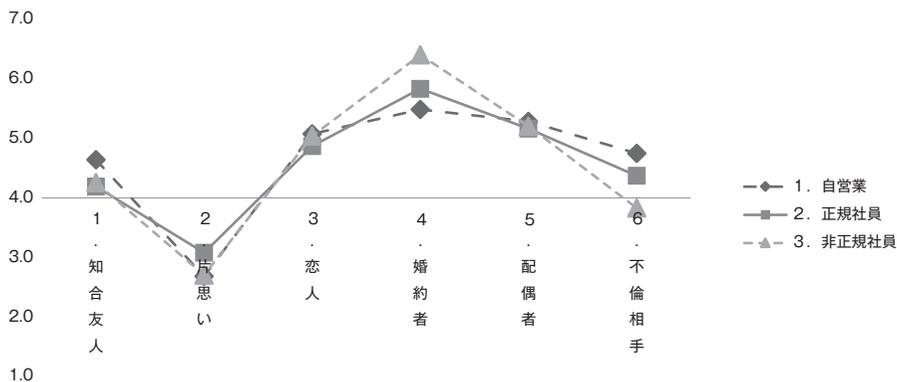


Fig. 8 関係満足度【相手との関係×本人雇用形態】

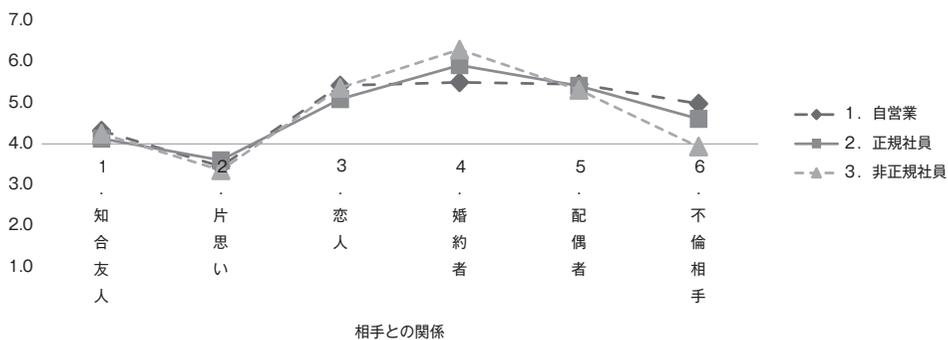


Fig. 9 関係幸福度【相手との関係×本人雇用形態】

## 引用文献

- 府中明子 (2016). 恋愛結婚の条件——首都圏にくらす未婚女性へのインタビューから—— 家族研究年報, 41, 41-57.
- 柏木恵子 (1998). 結婚・家族の心理学——家族の発達・個人の発達—— ミネルヴァ書房.
- 柏木恵子・平山順子 (2003). 結婚の“現実”と夫婦関係満足度との関連性——妻はなぜ不満か—— 心理学研究, 74(2), 122-130.
- 川名好裕 (2016). 男女関係の進展による心理的魅力要因の変化 立正大学心理学研究所紀要, 14, 3-12.
- 川名好裕 (2017). 男女の愛情関係：交流内容と心理的魅力との関係 立正大学心理学年報, 8, 1-13.
- 川名好裕 (2019). 男女関係における魅力と関係満足度 立正大学心理学研究所紀要, 17, 1-16.
- 小林 盾 (2012). 恋愛の壁、結婚の壁——ソーシャル・キャピタルの役割—— 成蹊大学文学部紀要, 47, 157-164.
- 落合恵美子 (2004). 21世紀家族へ——家族の戦後体制の見かた・超えかた—— 有斐閣.
- 佐々木昇一 (2012). 結婚市場における格差問題に関する

- 実証分析——男性の非正規就業が交際行動や独身継続に与える影響——, 620, 93-106.
- 柴田弘捷 (2017). 日本の非正規労働者問題——女性パートを中心に—— 専修人間科学論集, 社会学篇, 7(2), 25-42.
- 2007 総務省「就業構造基本調査」  
 〈<https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000000cguk-img/2r9852000000ch56.pdf>〉  
 (2021年11月15日)
- 2019「国民生活基礎調査」就業者の正規・非正規比率  
 〈<https://news.yahoo.co.jp/byline/fuwaraizo/20200812-00191949>〉 (2020年8月)
- 2020総務省「労働力調査（特別調査）」正規雇用労働者と非正規雇用労働者の推移  
 〈<https://www.mhlw.go.jp/content/000830221.pdf>〉  
 (2021年11月15日)

## 注

- 1) この研究は、2021年度立正大学心理学研究所の研究助成のもとで企画されたものの一部である。立正大学心理学研究所の助成に感謝の意を表したい。

## 要約

男女の就労状況が男女の異性関係に及ぼす影響を調べるためにインターネット調査を実施した。20代から40代の男性563人、女性652人のデータを首都圏から取得した。データは雇用形態別（正規社員、非正規社員、自営業、無職・専業主婦）に、また男女関係別（知合・友人、片思い、恋人、婚約者、配偶者、不倫関係）にデータ収集された。分析の結果、次のような知見が得られた。男女の雇用形態の組み合わせ分析から、正規社員同士、非正規社員同士など仕事勤務時間と空間が一致する組み合わせが多く、知り合ったきっかけも職場仕事関係が多く、男女が同じ時間と空間を繰り返し共有することが男女関係進展の条件となっている。仕事関係以外では、男性ではインターネット、女性では友人の紹介がそれについていた。勤務形態が男女関係に及ぼす影響としては、男性は同じ勤務形態同士の組み合わせは多いが、相手の女性の勤務形態にはあまりこだわっていない。しかし、女性では多くの人が自分の勤務形態にかかわらず、正規社員の男性を選好している。本人の地位経済力に関しては、全般的に男性の方が女性より高いと認知している。女性では正規社員でも自営業や非正規社員より地位経済力が高いとは自己認知していない。女性は婚約、結婚関係、不倫関係の相手としては高い地位経済力のある相手を選好している。特に非正規社員の女性は、つきあい相手として高い地位経済力の男性を選んでいる。男女の交流内容の分析の結果、対面コミュニケーションについては女性より男性の方が全般的に積極的であるが、非正規社員の男性は自営業や正規社員よりきわめて消極的であった。共行動と社会的交換についても、男性の自営業者、正規社員は女性より積極的であったが、男性の非正規社員は女性よりも消極的であった。以上のことから男性の非正規社員は男女関係の進展にきわめて不利であることが分かった。しかし、相手への愛、関係満足度、関係幸福度については片思い関係と不倫関係を除いて、その他の男女関係において、雇用形態の影響はないという結果であった。

キーワード：雇用形態、異性関係、男女比較、地位経済力、愛、関係満足度